

会 議 等 開 催 結 果 報 告 書

1. 会議名	令和6年度（2024）第3回出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会		
2. 開催日時	令和7年（2025）2月10日 月曜日 13：30～15：00		
3. 開催場所	出雲市役所 6階委員会室		
4. 出席者	<委員> 芦矢京子委員、天野和子委員、安食和彦委員、飯塚由美委員、川谷吉正委員、木次勝義委員、齋藤茂子委員、高橋陽委員、中間敦司委員、倉橋輝夫委員、吉田太郎委員 （50音順） 欠席：浅野紳委員、藤江多恵子委員、古川祐次委員、原洋子委員 <事務局> 出雲市：福祉推進課長、福祉推進課長補佐 ほか 出雲市社会福祉協議会：事務局長、総務課長 ほか		
5. 議題（会議等において検討された事項等）	開会 1 委員長あいさつ 2 議事 （1）出雲市福祉総合相談支援事業の取組状況について （2）市民アンケート調査結果に係る年代別傾向について （3）市民アンケート調査結果に係る各施策の評価について （4）出雲市再犯防止推進計画の進捗について （5）令和7年度出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会の開催予定について 3 その他 閉会		
6. 担当部署	出雲市健康福祉部福祉推進課 出雲市社会福祉協議会総務課企画係	連絡先	0853－21－6694 0853－23－3781
7. 会議要旨	以下のとおり		

1. 開会	本委員会を公開で開催、傍聴人 無し
2. 委員長あいさつ	長い間の寒気で体調はいかがでしょう？体力的にも気力的にも疲れが出ると思います。本年度最後の会議になりますが、事務局から検証・分析の資料を追加しております。来年度に向けての方向づけができればと思います。よろしくお願いします。
3. 議事	
委員長	それでは、次第に従って議事に入ります。議事1「出雲市福祉総合相談支援事業の取組状況について」について（資料1）事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>出雲市福祉総合相談支援事業の取組状況について(資料1)説明</u>
委員長	質問いかがでしょうか。 私からよろしいでしょうか。事例に対して定期的に関わること、何か必要性があった時に関わることというところはいかがでしょう。
事務局	タイミングの話については、相手の世帯によって分けています。ひきこもりの方がいらっしゃるご家庭で、親が相談に来られるケースでは、定期的に面談するようにしています。理由は二つあって、ご両親の相談する先がなかなかつながりにくいということ。もう一つは、ご家族自身より、第三者が話を聞くことで、ご本人ができるようになっていく事柄の確認ができるということから、2～3カ月ごとに定期面談しています。 今回のケースは定期的な面談が難しいので、何か問題が発生するタイミングや、世帯の方からSOSがある、兄弟さんや民生委員さんを通じて連絡があるというタイミングをとらえて介入しています。この事例は定期的な介入が難しい世帯かなと思っています。基本的にはこの2パターンが多いと思っています。
事務局	<u>市民アンケート調査結果に係る年代別傾向について(資料2)説明</u>
委員長	皆様ご意見、ご質問いかがでしょうか。 自治会もあと10年もするとかなり厳しくなりそうですね。私が思うに小さい町内会には所属したいけど、大きい連合町内会になると役員があつて大変だからという方が多いというのもあるかと思います。どのように考えていくといいでしょう。
A 委員	「住民相互のたすけあい」のところですが、「どちらかという必要だと思う」が少しずつ減ってきているように感じますが、この理由について、推察でも構いませんが、いかがでしょうか。
事務局	私見ではあるが、いろいろな行政サービスが充実してきて、そういった機関

	に頼れば困った時の助け合いやセーフティーネットができて充実してきているのではないかと個人的には思っています。 個々であれば、ネットや業者など行政も含めたそうしたサービスがあって、対応可能なものが増えてきたということが要因ではないかと考えています。
A 委員	そう思われるというところですね。
委員長	他にいかかでしょうか。
B 委員	「問 8. これまでに地域福祉活動をしたことがありますか」という問いですが、「これまでにしたことはない」が一番大きいですが、地域福祉活動の捉え方に幅があるのではないかと思います。どういう範囲で捉えているのか？いわゆる福祉的なというところで、介護や障がいなどをイメージして、「ある」か「ない」で捉えているのではないかと。またはもっと身近なところで子ども会、PTA、スポーツ少年団など日々やっているボランティア的な活動のことも含めると、もっと数値も変わってくるのではと思うのですが、今回の調査ではどの範囲を拾ってやっておられるのか伺いたいです。
事務局	今回アンケートの中で地域福祉活動の定義としては、左上の地域福祉活動※印に説明書きがあり、これを読んでいただいて、自分が該当するかしないかの判断になります。先ほどの子ども会の活動なども地域の活動として入る可能性もありますし、PTA の活動も入る可能性もあるかと思います。
B 委員	それを回答者がどう判断するかはよく分からないということですね。若い世代の方、子どもさんがいる世帯ではそういった活動がもっと身近にあると思うのですが、それにしては低いなと思いました。
事務局	推測ですが、令和 3 年～6 年にかけてはコロナの影響もあって、いろいろな活動が縮小されてきたこともあり、それも一つの要因ではないかと思います。
C 委員	「問 13. 町内会の加入」についてですが、この数字を見るとけっこう多いように思いますが、ある地域では半分もないと聞いています。私の住んでいる地区もかなり加入していないと聞いています。グラフのまとめ方やアンケートの仕方がどうだったのかと思っています。
事務局	今、手元に資料がないですが、出雲市全体では 55% くらいの加入率と思います。自治振興課で調べていて、低いところでは 2～3 割くらい。高いところでは 7～8 割くらいだったと思います。回答されている方がどちらかというと自治会に加入されている方のほうが多かったため、比較的高くでているのではないかと思います。実態としては各地区ごとに自治振興課が把握をしていますが、どうやったら加入率を上げていくかは課題としてあります。

C 委員	私も自治会で自治協会費を集めているのですが、消防関係も助成金を出して、中学校の後援会費も出しています。 でも、実際に火事が起きたときに、あそこの家は加入されているかどうかを確認はしないし、加入していないからという訳にはいかない。そのあたりで不公平感を感じることがあります。
事務局	なかなか妙案が浮かばないのですが、自治会に入っているところは集められているが、入っていないところは集められないのは不公平ではないか、社協の募金や学校の後援会費など色々な面でそういった意見は聞いています。各部門で色々考えられてはいますが、不公平感については、なかなか払拭しきれていない状況です。理解を進めていくことや学校の後援会費については、子どもたちをメインにしたイベントの時に保護者へ発信するなど考えられている地域もありますが、全体的には難しい状況です。皆さん何か良い意見があればお願いしたいです。
D 委員	自治会は互助会組織という風に思っている住民も多いと思っています。私は自治会についてはそうではないと思っています。自治会はそのエリアを住みよい地域へするための団体だと思っています。そういう考えが広がっていかないとメリット・デメリット論になります。そうすると「それは私が考えることではない。消防が考えることだ」というふうになってしまいます。メリット・デメリット論はできるだけ捨て去りたいと思います。それと、自治会加入については、この割合は実態より多いと思います。大津は 47%、塩冶や四絡も低いです。しかし上津は限りなく 100 に近い 9 割台。非常に低いところがどちらかというと人が多く住んでいるところだと思います。自治会加入している割合が多い人達の考えがこういう考えだととらえた方がいいと思います。加入している人は助け合おうという気持ちが高いと推察されます。
委員長	他の皆様いかがでしょうか。自治振興課を始め、取り組みを進めておられますので、みんなで力を合わせて進めていければと思います。
事務局	<u>市民アンケート調査結果に係る各施策の評価(資料 3)について説明</u>
E 委員	アンケートの満足度のところですが、「施策の充実や支援の充実」など、施策的なものが多いと思います。それが満足しているかどうかというのは、何が行われているのかを知っていないと難しいのではないかと思います。例えば町内会・自治会活動の充実は、その望ましい姿はこれだということをもっていないと自分の満足度は出てこないのではないかと思います。「満足です」と答えた人は何をもって答えたのか。「分からない」と答えた人のほうがよく分かります。私もこの項目を見て「保健施策の充実」、出雲市ではこういった施策が行われているというのが頭に浮かんでこないです。同じことが「障がい者福祉施策の充

	実」についても言えて、出雲市ではこういう施策が行われていて、それには満足というものがあると思います。分からないのに満足か満足ではないは答えられないのではないかと思います。
委員長	一つ一つの施策が分かるかと言われると難しいとは思いますが、どうでしょうか。
E 委員	付け加えると、これが意味あるのかどうかと思っています。例えば、施策をした結果、望ましい現実が起こって、便利で住みやすい地域になっているということがあれば、施策がうまくいったためにこういう住みよい地域になったというふうに言えると思います。自分の家の近くに病院があれば便利というのはあると思うので、自分が感じている住みやすい地域になっているのかどうかという回答の仕方だと色々出てくると思います。住みやすい地域になっているかどうかは施策と関係あるので、施策と現実を考えるのは行政であり、こういう委員会だと思います。では、この施策は効果がないとか、もっと充実した中身のあるものにしていこうということになっていくのではないかと考えています。
委員長	行政の方は施策がどうかという評価は常日頃やっていると思いますが、市民がどこまでどう受け止めて評価するかというのは難しいこととは思いますが、何をやっているか分からなければ、意味があるのかどうかというご意見ですが、いかがでしょうか。
F 委員	満足か不満足かということについては、前提として施策を理解したうえで、それに対して評価をしていくものだと思います。先ほど委員がおっしゃられたように分からないという意見が多い中では、これを聞いていくというのはどうかと思います。半数近い方が分からないと答えています。その中でも資料3にもありましたが、満足度が低いとか急激に落ちているとか、市の各課の中での評価が記載されていました。分からないというところが半数であれば、まずそこに焦点を当てたうえで、施策を理解されていないということが評価にあたるのではないかと思います。本日、中身は割愛されたのですが、評価の中身をみていくと、市の施策として何かをやったという評価ではなく、施設の人材が不足していて利用者がなかなか入れないとかそういうところが評価に入っていたり、高齢者施設が倒産しているとか、市の施策とは違う評価をされているのではないかと思います。倒産件数についてもコロナで利用が少なかったため倒産があったとは思いますが。人材不足で倒産されたところも中にはあるかと思いますが、それが市の施策ではないと思います。市の施策として評価をされるのであれば、市が行った施策についてどうだったかという評価を記載されるべきだと思います。これだと民間の事業者の方が少なくなった、もしくは人材が不足していることによって満足度が低いのではないかと、という書き方がしてあり、少し残念ではありました。

委員長	施策の評価について事務局からいかがでしょうか。
事務局	この計画自体が、福祉全体の理念的な計画になっているので、これにぶらさがって、それぞれ健康や高齢者や障がいの個別の計画があり、それに対して施策がぶらさがっているという成り立ちがあります。個別の施策の評価については、個別計画のなかで評価されていき、K P Iを設定して評価を進めています。そのため、この計画はどちらかというと理念的なものであり、該当の方が答えているわけではないので、そことリンクしていない部分で話がずれてしまうところなのかなと思います。個別の計画に関しては、良くなってきて、それで全体が上がっていけば一番いいのですが、そこまでの評価ができていないというところがあります。 今回、このような意見もあるので、アンケートの仕方を考えていかなければならないと思います。ただ何年かごとの統計的な要素もありますので、その推移を比べていくことも必要に応じてありますので、どうしていくかは今後考えていきたいと思っています。ご意見は参考にさせていただきます。
委員長	他にご意見はいかがでしょう。
G 委員	「委員意見等一覧」で、①高齢者の避難先の確保のところについてです。福祉避難所は運用して1年くらいだと思いますが、まだ実際に利用された実績はないですか？まだないですね。個人的に福祉避難所にすごく期待しています。実際の背景を考えると社会福祉法人さんが受け入れをやっておられると思います。対象者の方については、日ごろ利用されている方が対象者になっています。当然、利用者さん個人の状態を把握して、安心したうえでの受け入れということは分かります。実際に社会福祉法人を利用されているということはおそらくデイサービスあたりだと思いますが、かなりの割合で民間の事業所が運用されていると思います。社会福祉法人に申し込まれても、普段利用しておられないと受け入れてもらえないのではと思います。二次避難所については、へき地などでは公的な避難所が利用できない人もいます。避難したが生活ができないとなり、次に二次避難所へとなった時に、行政の人がいないと二次避難所にもつながらないという事にもなるのではないかと思います。運用したら課題が見えてきて、だんだん良くなっていくということは分かるのですが、実際に今年度あたりにそうしたケースが出てきたときに実効性があるのかなと思っています。社会福祉法人としては、嫌とは言えない立場もあると思います。人手不足に悩んでおられたり、スペース的なものにも問題があったりしています。また、単身で在宅で頑張っておられる人の場合、身内が近隣にいない場合もあり、家族が避難所へ一緒に行くというのはなかなか難しいと思います。ご近所さんについてもへき地になるとあてにはできない状況です。安全に避難する時にへき地には課題が多いと思います。福祉避難所の送迎についても基本的に家族がするということになっていますが、難しい世帯もあります。日中、家族が勤務先

	にいる場合はどうするのかということもあります。課題はたくさんありますが、なるべく早く、課題を一つ一つ潰していく必要があります。実効性のある取り組みにしてほしいです。受け入れることができる体制かどうかについて心配しています。さらに検討していただきたいです。
H 委員	常々心配だなと気になっていたところです。指定先もいっぱいあると思うのですが、実用性がどうかということもあると思います。例えば、ホテルとか大型店舗とかはどうかと思っています。大規模災害が起きた時に、だいたい温泉地の旅館の方が自発的に受け入れられるケースがあるので、そういうところにもあたってみてはどうかと思います。周辺の地域や山間部は、福祉避難所を設定しづらいと思いますので、幅を広げて、そういうところもあたってみてもいいのではと思います。 もう一つは「自治会の加入率」というところで考えていたのですが、出雲市内はマンションが増えていて、そこの方々は自治会には加入していないと思います。なぜ加入をしないのかというと、いろいろ要因はあると考えています。自治会組織が無かったらどんな風になるのかという事を考えてもらうことにアプローチしてはどうかと思います。マンションなどへのアピールはどうしているのかと思います。 私もマンションに住んでいて、入っていないなくても困らないという事もありますが、組織が無かった場合、どういう時に困るのかというところを皆さんに分かってもらうといいのではないかと思います。
委員長	福祉避難所については事務局からどうでしょうか？
事務局	災害についてもいろいろな災害があると思います。最近で起きているのは水害がほとんどで、あらかじめ天気予報で多少想定ができ、対象者やエリアも絞れると思います。そういった場合はまずは一時避難所であるコミセンなどを避難所にして、障がいがある方で医療処置が必要であれば病院に行ってもらったり、高齢者であれば緊急ショートを使ったりなどで対応できると思います。ただ大規模な能登のような地震になると、行政職員もすぐに集まることもままなりません。やはり地域の方との協力がないとできないと思います。福祉避難所もできましたが、なかなか受け入れるキャパは少ないですし、その施設の職員さんがおられないと対応もできないということもあります。 昨年からやっていただくということで開始していますが、まだ実績もなく、課題があると思います。まずは、どこかの避難所に行ってもらって、そのなかで保健師などが回ってきますので、そこでここよりも別なところへと次の行き先を探して移動してもらい、要配慮者を分けていく必要があります。 二次避難所については、利用者ではなくても良かったはずなので、マッチングを進めていき、そこにも職員が出かけていき、避難所運営をしていきます。どんな課題が出てくるのか、どんなに対策をしても難しいと思いますが、ブラッシュアップしていく必要があると思います。受け入れ先も増えないかという

	ところでお願いもしていこうと思います。 以前、受け入れ先の方に確認をしたときに、来られた住民をお断りすることはなかなかできないと話しておられましたので、一旦は受け入れてもらい、次の移動先を選定していくということになるのではないかと思います。 個別に独居の方が助けを求めておられるのに、気が付かなかったということがないように、個別プランはなるべく 100%にしていけないといけないと思っています。先ほどの自治会の加入率も低くなっていくなかで、近隣住民に誰がいるのか分からないということもあると思うので、地域としてはそうしたことがないように顔見知りの関係づくりを進めていってほしいと思います。
委員長	自治会に関してはここだけで検討することではないので、また広く行政を中心に検討を進めていただけたらいいかと思います。 施策に関しては、市民の方にアンケートで何を問うのか？という事について次のアンケートに向けて検討する必要があると思います。分かりづらかったというところはあったと思います。分析を深めていただいたので、それが分かったということではないかと思います。以上でよろしいでしょうか。
事務局	<u>出雲市再犯防止推進計画の進捗について(資料 4)説明</u>
委員長	ご質問、ご意見いかがでしょうか。
I 委員	再犯を犯す理由について、文書化されたものがあるのでしょうか？逆に言うとそれを潰していけばいいと思うのですが、もしあれば教えていただきたいです。
事務局	まとまったデータは持ち合わせていませんが、生活保護などで受け入れをする場合があります。出所された方で、とりあえず救護施設などに入られますが、そこから出られて就職につながらない方に関わる機会があります。そうした時に、そういう方を受け入れていただける企業も少しずつは増えていますが、すぐにはつながらなかったり、または就職しても辞めてしまったりしている方もおられます。就職して生活が安定すれば再犯もないと思いますが、どうしてもそういうところがうまくいかない方もおられます。そこに関する細かい全体像のデータは持ち合わせていません。
I 委員	分かりましたが、私が思うのは人との関係だと思います。人が誰も受け入れてもらえないのであれば、当然再犯に向かっていく可能性はあると思います。再犯が起こる理由は経済的な部分は分かると思います。お金以外のところと思って聞いてみました。分かりました。
事務局	<u>令和 7 年度出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会の開催予定について(資料 5)説明</u>

委員長	何かご意見いかがでしょうか。 なければ、こちらから提案します。昨年度に本委員会の活動として、子ども食堂・助け合い団体・ボランティア団体を訪問し、地域の実情について伺いました。市内には、それらの団体に加えて、第3の居場所・サードプレイスを提供しておられる団体が、近年増加傾向にあります。来年度の活動として、それらの団体を訪問し、実情を伺ってはどうかと思いますが、皆さんのご意見いかがでしょうか。 昨年度もでしたが、地域で主体的に活動されている方が増えてきているので、実情を把握するというのは大事なかなと思っています。昨年、4カ所伺いましたが、色々なことが実感できて良かったなという評価をしています。いかがでしょうか？ <了承>
委員長	それでは計画させていただきます。
委員長	その他ですが、この機会に皆様から情報共有していただきたい内容があればと思います。いかがでしょうか。
J 委員	健康福祉部長としての意見になります。本日いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。 特に自治会や防災の関係に関するご意見いただきましたので、行政でできることを考えていきたいと思っています。防災については色々ご意見をいただいて、今出雲でやっているのは初動対応ということで取り組みを進めています。実際、出雲で避難所を開設しても長期化したケースは合併後、起きていません。 ただ今後、長期化した場合に備えて、一次避難所からどこへ行っていただくのか等考えていかないとはいけません。昨年は日御碕で県道の崩落がありましたが、仕事をしていた人が帰れなかったりすることがありました。実際に避難できない人等の対応については、当然、地域の人だけではどうしようもないので、市だけでなく、自衛隊・警察・消防と協力して行いました。日御碕ではヘリコプターで移送したこともありました。デイサービスに通えない人についても、地域の方々が助け合いながらコミセンのほうで実施したり、病院のほうも薬を職員が配達したりなどの取り組みをしました。日御碕がこのような対応ができたのは人とのつながりがあったことは大事だったと思います。自治会もですが、人とのつながりが無いと今回の日御碕のような対応はできなかったと思います。そういう小さな取り組みを続けていきながら、人とのコミュニケーションを促進もしていきたいと思っています。防災は優先してやっていかなければならないと思います。そのためには地域福祉が基盤になると考えています。 また、アンケート調査についてご意見をいただきました。市の施策が市民の皆様に十分に理解されていないというところがでているかと思っています。情報発

	信についても、今後検討したいと思います。人によって何が重要かは主観的なところがあります。一例を挙げると、自治会については「重要度が低く、満足度が低い」ですが、行政の施策をみると、自治会加入を進めようと言っています。行政が目指していることと住民が必要としていることに乖離があるということになります。そういったことが現実にはあります。重要度が高く、満足度が低いということはニーズマップでは、行政として最優先に行わないといけないうのですが、実際、自治会を例にとりますと、市民が必要と思っていない部分を行政が行うという逆転現象が起きていると言えます。とは言っても、地域が生活の基盤ですので、そこにも力を入れていきたいと思っておりますので、委員の皆さまのご協力をいただきながら進めていきたいと思ひます。引き続きご協力をお願いいたします。
委員長	日御碕の自治会加入率は 100 パーセント？
J 委員	100 パーセントではありませんが、近いところがあります。地域の人が見えるというのは間違いなくあります。行政の保健師や地元の民生委員さんが連携したり、消防と連携したりしやすかったので、住民同士のネットワークは大切であると感じました。誰がどこにいるか分からないなどの状況だと時間もかかったかと思ひます。
委員長	他にいかがでしょうか。 <意見なし>
委員長	意見がないようですので、事務局にお返しいたします。
事務局	本日の議題は以上となります。 以上で本日の委員会をこれで終了いたします。ありがとうございました。
閉会	